

大今合同新聞

同音異義語で文章を面白く

ワークシート

年組名前



東西南北

2016.10.5

南北東西

2016.10.5

何とも対照的だ。「何か一つでも人のためになることができないか、いつも考えてきた」。熱帯感染症の特効薬を開発した大村智・北里大特別栄誉教授(81)は1年前、そう語った。だが、今年の受賞者は「研究がどう役に立つののかは気にしない」という。科学者には二つのタイプがある

東京工業大栄誉教授(71)
「顔写真」がノーベル医学賞に輝いた。牛

む人々を勇気づけるからだ。政府の研究費や大学、企業でも目先の成果が重視される時代。「何の役に立つの?」と言われる基礎研究は肩身が狭い。ノーベル賞の選定ですら応用色が強まっている▼大隅さんはストレートに語る。「科学が『役に立つ』という言葉が社会を駄目にしてる。本当に役立つのは100年後かもしれない。将来を見据え、科学を一つの文化として認めてくれる社会を願っている」▼「基礎と『応用』は、いわば車の両輪。もつと長期的な視点から基礎研究に光を当て、若い研究者たちに『辞職作用』が起きないようにしなければ」と思つ。

ができるかに注目が集まる時代に、細胞がタンパク質を廃棄し、リサイクルする仕組み（自食作用）をこつこつと解き明かした。その原動力は「生命現象の真実を明らかにしたい」という純粋な好奇心▼大隅さんの研究仲間は今回受賞を心から喜ぶ。基礎研究の大切さを口に口づけ、これを取る目

命活動を担うタンパク質はどうやつて
学生理學賞に輝いた。生

著者には二つのタイプがある
と実感する▼大隅良典・
東京工業大栄誉教授(71)
眞理堂 さだゆき トモミ

語った。だが、今年の受賞者は「研究がどう役に立つかは気にしない」と言つた。科学者たる立場からいへば、この見解は間違つた。しかし、この見解は、受賞者の立場からいへば、この見解は間違つた。

東西 2016.
た」。熱帯感染症の特効薬を開発した大村智・北里大特別准教授(1)は「

南北
10.5 何とも対照的だ。「何か一つでも人のためになることができないか、いつも考えてき

(2016年10月5日付朝刊1面)

- ① この「東西南北」のようなスタイルの新聞上の文章を、カタカナ3文字で何と呼ぶでしょうか。

()

- ② 大隅さんが願う社会の在り方を、本人が語ったことから短くまとめましょう。

- ③ この文章は、2つの「同音異義語」を活用することでより面白くなるよう工夫されています。2つの言葉を探し、抜き出しましょう。

() と ()